

平成28年度国立大雪青少年交流の家
第2回施設業務運営委員会利用促進部会議事要旨

日 時 平成28年11月29日(火) 14:00～
場 所 大雪青少年交流の家 2階 第2研修室

運営委員出席者	：西村委員，十川委員，尾崎委員，岩城委員	計	4名
欠席者	：山中委員，松倉委員，田中委員	計	3名
国立大雪青少年交流の家の出席者	：秋山事業推進室長，安達企画指導専門職，石川事業推進室員， 小林事業推進室員，水野事業推進室員	計	5名
オブザーバー	：笠井委員長	計	1名

(●事務局 ○部会長 □委員)

●事務局

資料確認，会議時間確認，委員紹介，欠席委員報告，事務局自己紹介

○部会長による議事進行

○部会長

部会審議時間は約40分。本日は3議案あるので，1議案10分として進めていく。
今回初参加の委員もいるので，事務局から当部会の今年度の役割を再度説明していただきたい。

●事務局

(参考資料) 「新しい公共」型施設運営のための利用促進部会計画(案)

- ・昨年度は「広報部会」だったが，今年度は名称が変わり「利用促進部会」となった。
- ・「利用促進及び広報活動方針に関すること」「研修支援に関すること」「広報活動の充実に関すること」の3項目について成果目標があり，当該目標を達成するための部会活動である。
- ・本日の部会では，年度の中間報告として進捗状況を説明していく。
- ・昨年度の総利用者数107,405人で，目標(11万4千人)には達しなかった。
- ・昨年度の稼働率は53%で，昨年度の目標(57%)には達しなかった。
- ・今年度の目標は資料にあるとおり。
- ・前回の資料から訂正があり，日帰り利用の目標人数を3万7千人に修正したため，総利用者数の目標は10万8千人となった。

□委員

質疑なし

○部会長

議題1：「平成28年度利用促進アクションプラン」について事務局から説明を願いたい。

●事務局

(資料2) 資料について説明

- ・「平成28年度目標数値と現状」

- ・「宿泊利用者数比較表」
- ・「年度別宿泊総利用者数の推移」

日帰り利用者数は、施設で研修を行った人数以外にも、職員が各地域に出向いて研修支援を行った場合も含まれるが、今年度は50周年記念事業等のイベントが重複し、支援に出向くことができなかった。

今年度の総利用者数が目標10万8千人に対し、宿泊利用者数が大きく伸びたことから、総利用者数見込みが122,313人となっており、大きく上回っている。

- ・第2四半期が前年度の四半期実績に対して5%以上増加した場合に提出する報告書の説明

今年度の取り組み①「地元の観光資源を生かした広報の継続実施」②「国際交流事業の継続実施による外国人留学生への施設の普及・啓発」③「美瑛町と共催で行った、上海の音楽学校の子もたちと美瑛町の子もたちの交流事業の受け入れ」④「白金温泉に宿泊している韓国のクロスカントリースキーツームの施設利用」を組み合わせることで継続的に行った結果、交流の家のHPを閲覧した韓国の団体が施設の長期利用（9月中旬から10月末）を行い、宿泊利用者数が約17,000人を超える伸びにつながった。

(資料3) 資料について説明

- ・目標達成に向けた対策及び現状について説明（資料3参照）
- ※対策活動の実施・未実施について説明

報告は以上。概ね実施済みだが、未実施の部分については今年度中に実施する予定。

○部会長

ただいま事務局から平成28年度の施設利用見込みの状況及び利用促進アクションプランの対応状況について説明があったが何か意見やアドバイスはあるか。

□委員

総利用者数が目標を大幅に超えているが、韓国の団体は次年度も利用するのか。

●事務局

今年度ほど長期ではないかもしれないが、利用の問い合わせが来ており、調整中である。

□委員

韓国の団体は青少年が多いのか。

●事務局

どちらかというと一般の利用が多い。

□委員

今年の台風の影響はどの程度出たのか。

●事務局

(資料2) 8月のところを見ていただくと昨年度比でプラス250人となっている。台風の影響により例年実施の日帰り利用イベント「十勝岳トレイル」が中止となったケースや、学校利用でもキャンセルがあった。一方、本州から来た団体が台風のため帰ることができず、急ぎで施設を利用し

たケースが2件あり、結果的には250名の利用者増となった。しかし、台風の影響で冬季のクロスカントリーコース上の橋が落ちる被害があり、冬季の利用者数に影響が出ている。

□委員

資料2の3枚目の「5%以上増加した場合」と「5%以上かつ1,500人以上減少」と記載があるがこの用紙はどのような時に使うものなのか。

●事務局

資料2の3枚目は、昨年度比で一定の利用者数増減があった場合に、機構本部から提出を求められる理由書で、その取り組みや要因について報告し、他施設と情報を共有することになっているものである。

●事務局

補足説明（資料4）資料について説明

- ・広報対象別に作成されたチラシの説明

利用促進分析に基づき、対象別のチラシを新規に作成したもの。これまでは、配布により広報を行ってきたが、今後は、作成したチラシを持って各方面に出向き、広報活動を行っていく必要があると考えている。

○部会長

議題2：「平成28年度施設の研修支援等に関する自己採点表」について事務局から説明をいただきたい。

●事務局

（資料5）資料について説明

- ・各採点項目について、点数および達成度と、その根拠となる取組内容について説明

現時点では、未実施の取組もあるので、年度末までに実施する。

また、「ボランティアが事業のすべてを実施する」という項目については、今年度は実施できないため1点となっているが、次年度は実施を計画中であり3点となる予定。

□委員

質疑なし

○部会長

議題3：「平成28年度自己点検・評価（中間評価）」について事務局から説明をいただきたい。

●事務局

（資料6）資料について説明

- ・評価項目とその根拠について説明

□委員

利用者数確保の部分は評価が「S」となっている。外国人の利用は施設の趣旨と照らし合わせて、整合しているか。

●事務局

本来であれば、施設利用の対象は青少年団体対象。しかし、青少年の人口減少という背景もあり、現在では、青少年団体の利用がない時には、一般団体の利用も可能であり、趣旨とは整合している。

□委員

国内・国外という区分はあるか。

●事務局

そういう区分はない。各施設の立地状況に応じた受け入れをすることになっている。観光目的としてではなく、研修を行うという目的であれば、国内・国外の区分なく施設を利用することができる。

□委員

外国の団体においても、一般よりは、青少年の方の利用促進を目標としているか。

●事務局

青少年層の利用を第一に考えている。

□委員

国内の一般団体よりも、国外の青少年の利用を優先的に考えるか。

●事務局

国内・国外の区別はなく、利用について問い合わせがあれば第一には青少年を、続いて一般を、としている。

議事終了

○部会長

部会で出た意見をまとめて、本会議で報告する。予定された議題は以上。事務局から何か追加はあるか。

●事務局

追加はない。

○部会長

次回の利用促進部会は、次回改めて事務局から連絡を行う。